



平成22年第4回 箕面市国民健康保険運営協議会 参考資料

～ 単年度の赤字解消のシミュレーション ～

2010年12月
市民部 国保年金課



【目次】

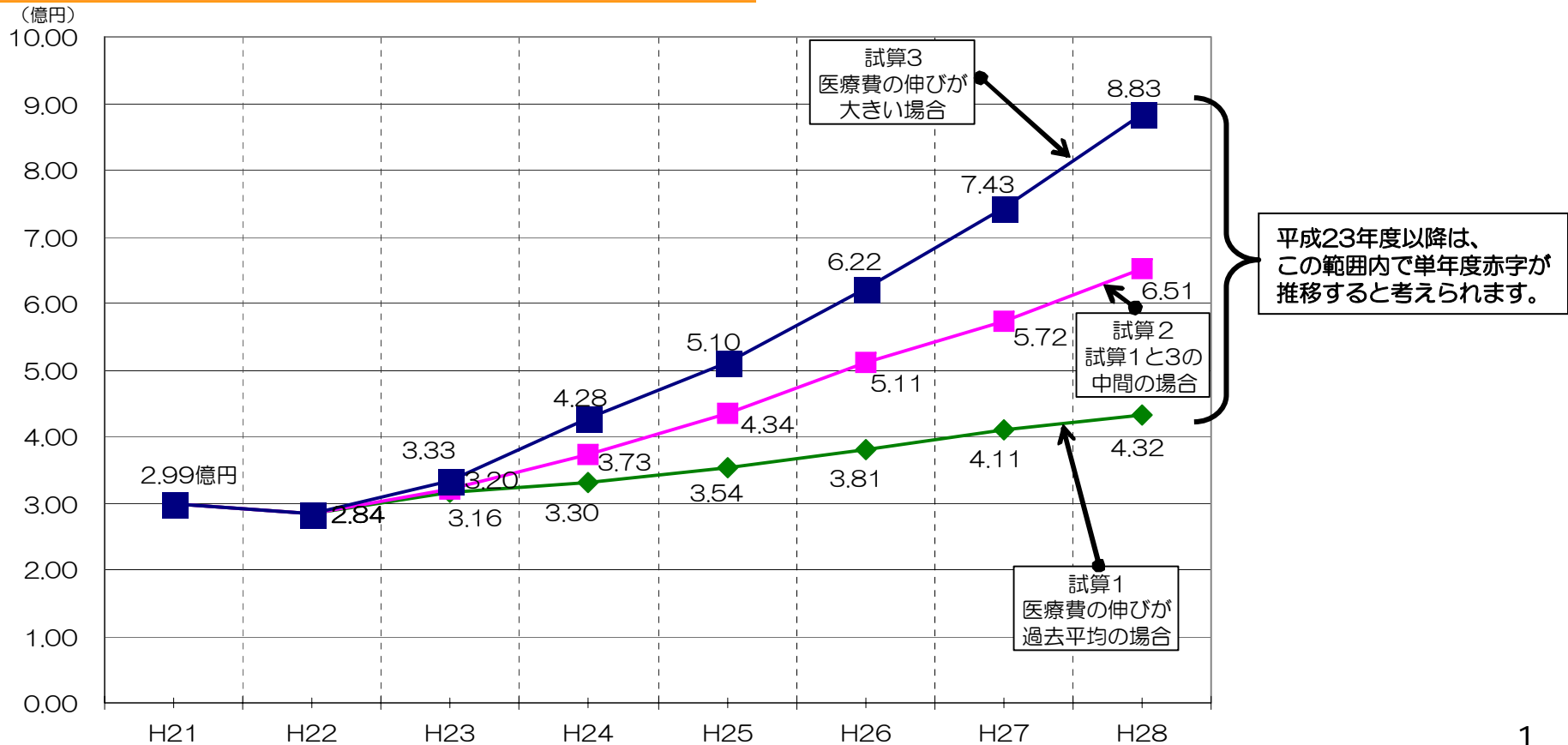
1. 単年度赤字の推計
2. 単年度の赤字解消の試算①－1
3. 単年度の赤字解消の試算①－2
4. 単年度の赤字解消の試算②－1
5. 単年度の赤字解消の試算②－2
6. 単年度の赤字解消の試算③－1
7. 単年度の赤字解消の試算③－2

1. 単年度赤字の推計

平成23年度から平成28年度の収支見込みから、単年度赤字の状況をグラフにしました。

- ・平成23年度以降の単年度赤字は、試算1と試算3の折れ線の間で推移すると考えられます。
- ・保険料の改定を行わなければ、単年度赤字が少ない年度で約3.1億円、大きい年度で約8.8億円が単年度赤字となります。

グラフ1：平成24年度以降の単年度赤字の推計結果



2.単年度の赤字解消の試算①-1

仮に、単年度の赤字を5年かけて、平成27年度に解消する場合のシミュレーションを行いました。シミュレーションは、スライド1の試算2にて3種類行いました。

- ・初年度は単年度赤字の20%を保険料で、次年度は40%、5年後に単年度赤字の100%を保険料で解消する試算です。
- ・5年後に単年度赤字を100%保険料で賄うまでは、実線と波線との差額分を累積赤字に回すこととなります。
- ・グラフ1の波線の折れ線が、各年度の単年度赤字に占める保険料の増加額です。
- ・前年度比の保険料の増加額は、表1のとおりです。
- ・平成28年度末の累積赤字は、試算1で約39億円、試算2で約40億円、試算3で約41億円です。

グラフ1：試算2での単年度の赤字と赤字解消の試算結果

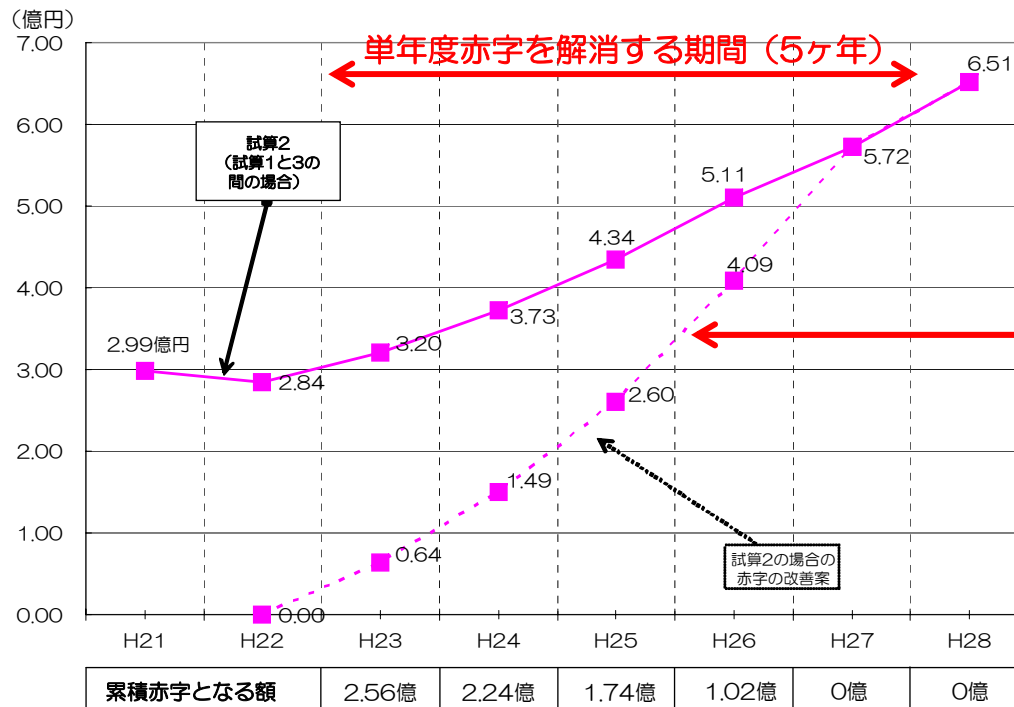


表1：保険料の増加額と単年度赤字に占める割合

	試算1 (億円)	試算2 (億円)	試算3 (億円)	単年度赤字に 占める保険料の 割合
平成23年度	0.63	0.64	0.67	20%
平成24年度	0.69	0.85	1.05	40%
平成25年度	0.80	1.11	1.35	60%
平成26年度	0.92	1.48	1.92	80%
平成27年度	1.06	1.63	2.45	100%
平成28年度	0.21	1.40	1.40	100%

○後年度になるほど、保険料の増加額が増えます。

3.単年度の赤字解消の試算①-2

(単年度の赤字が毎年度逦増するのではなく減少する年度があると想定した場合)

試算①-1を単年度の赤字が毎年度増加するのではなく、減少する年度もあるとして試算しました。

- ・単年度の赤字を増減ありとしていますので、グラフの単年度赤字の折れ線は凹凸ができます。
- ・単年度の赤字の状況に対応して、保険料の増加額も変動します。
- ・平成28年度末での累積赤字は、約40億円です。

グラフ1：試算2での単年度の赤字と赤字解消の試算結果

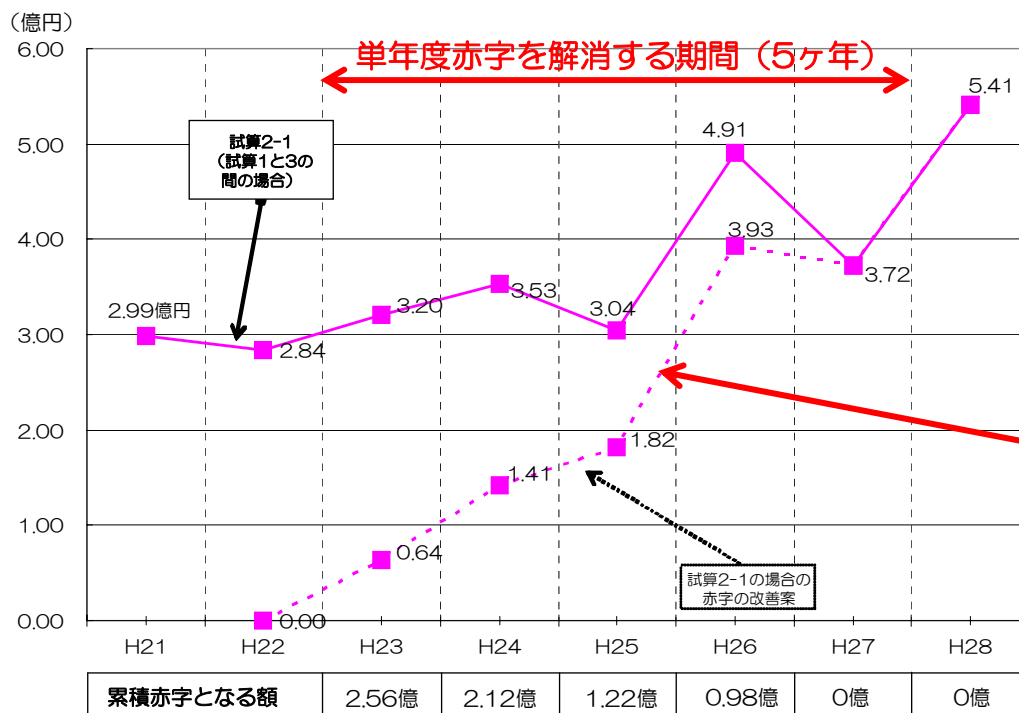


表1：保険料の増加額と単年度赤字に占める割合

年度	試算2-1 (億円)	単年度赤字に占める保険料の割合
平成23年度	0.64	20%
平成24年度	0.77	40%
平成25年度	0.41	60%
平成26年度	2.10	80%
平成27年度	0.19	100%
平成28年度	1.29	100%

4.単年度の赤字解消の試算②-1

- ・ 保険料の増額を各年度で均等に引き上げて、平成27年度に単年度の赤字を解消する試算です。
- ・ 各年度の増加額は、平成27年度の単年度の赤字の想定額を5で割っています。
- ・ 前年度比の保険料の増加額は、表1のとおりです。
- ・ 平成28年度末の累積赤字は、試算1で約38億円、試算2で約38億円、試算3で約37億円です。

グラフ1：試算2での単年度の赤字と赤字解消の試算結果

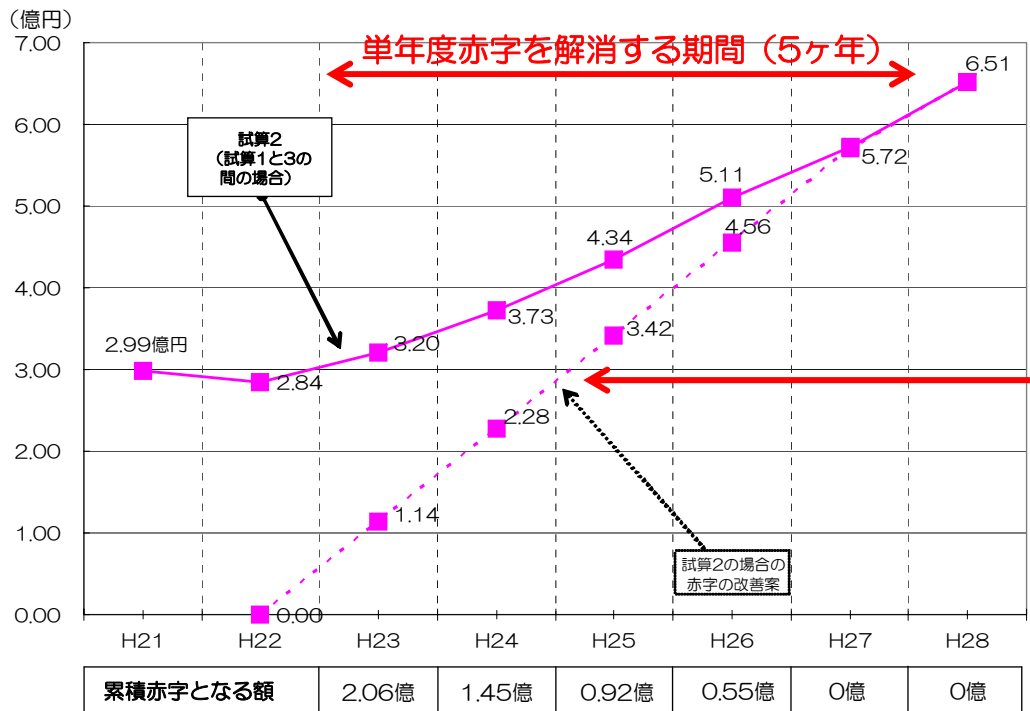


表1：保険料の増加額

	試算1 (億円)	試算2 (億円)	試算3 (億円)
平成23年度	0.82	1.14	1.48
平成24年度	0.82	1.14	1.48
平成25年度	0.82	1.14	1.48
平成26年度	0.82	1.14	1.48
平成27年度	0.82	1.14	1.48
平成28年度	0.22	0.81	1.43

○各年度の増加額を均一にできます。

5.単年度の赤字解消の試算②-2

(単年度の赤字が毎年度逡増するのではなく減少する年度があると想定した場合)

- ・試算②-1を単年度の赤字が毎年度増加するのではなく、減少する年度もあるとして試算しました。
- ・表1のとおり、各年度の保険料の増加額は一定ですが、グラフ1のとおり単年度の赤字を上回る保険料の増加額となる年度が生じます。
- ・平成28年度末の単年度赤字は、約34億円です。

グラフ1：試算2-1での単年度の赤字と赤字解消の試算結果

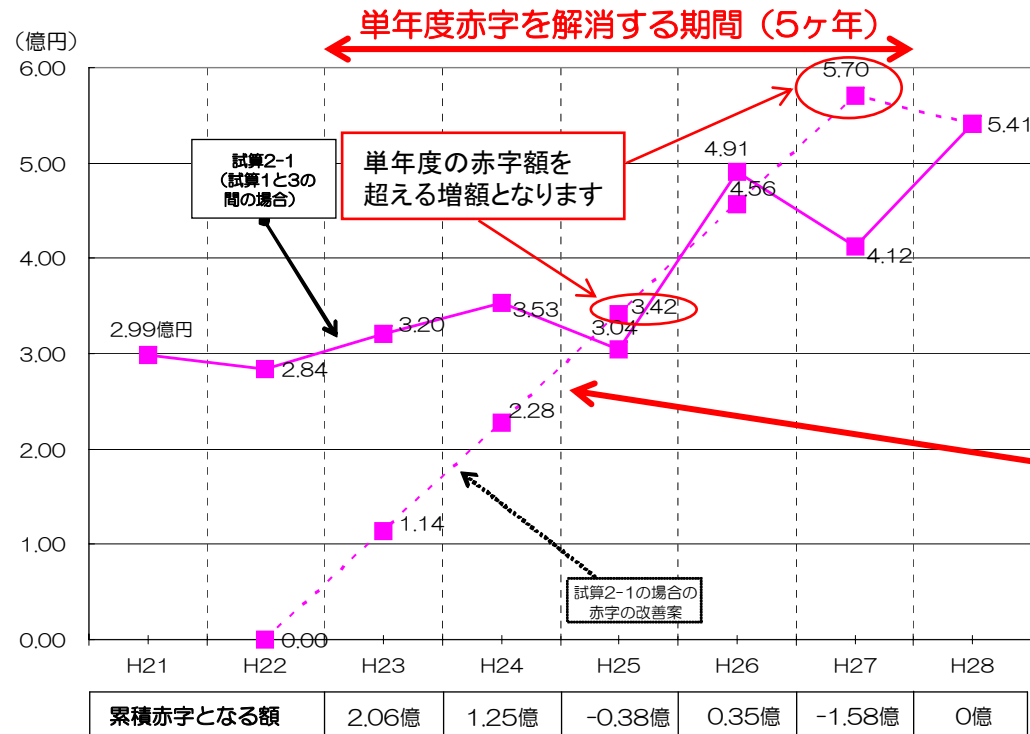


表1：保険料の増加額

	試算2-1 (億円)
平成23年度	1.14
平成24年度	1.14
平成25年度	1.14
平成26年度	1.14
平成27年度	1.14
平成28年度	-0.29

○各年度の増加額は均一です。
○しかし、単年度の赤字額を超える保険料の増加額となる年度が生じます。

6.単年度の赤字解消の試算③-1

- 各年度に必要な保険料の総額のうち、各年度で以下の割合を保険料とする試算です。
 - 平成23年度：保険料として必要な額の93%を確保
 - 平成24年度：保険料として必要な額の94.75%を確保
 - 平成25年度：保険料として必要な額の96.5%を確保
 - 平成26年度：保険料として必要な額の98.25%を確保
 - 平成27年度：保険料として必要な額の100%を確保
- 平成28年度末の累積赤字は、試算1から試算3の全て約40億円です。

グラフ1：試算2での単年度の赤字と赤字解消の試算結果

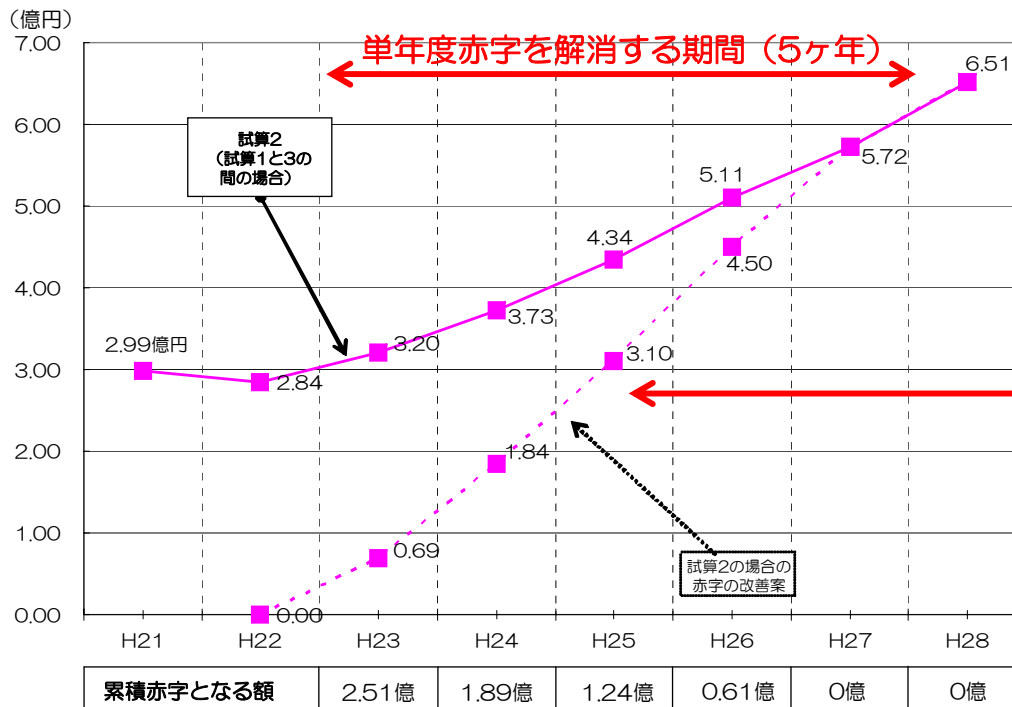


表1：保険料の増加額

	試算1 (億円)	試算2 (億円)	試算3 (億円)
平成23年度	0.66	0.69	0.81
平成24年度	0.78	1.15	1.56
平成25年度	0.88	1.26	1.48
平成26年度	0.89	1.40	1.75
平成27年度	0.90	1.22	1.83
平成28年度	0.21	0.79	1.40

○医療費の伸びが一番に大きい試算3でも増加額を2億円以内に抑制できます。

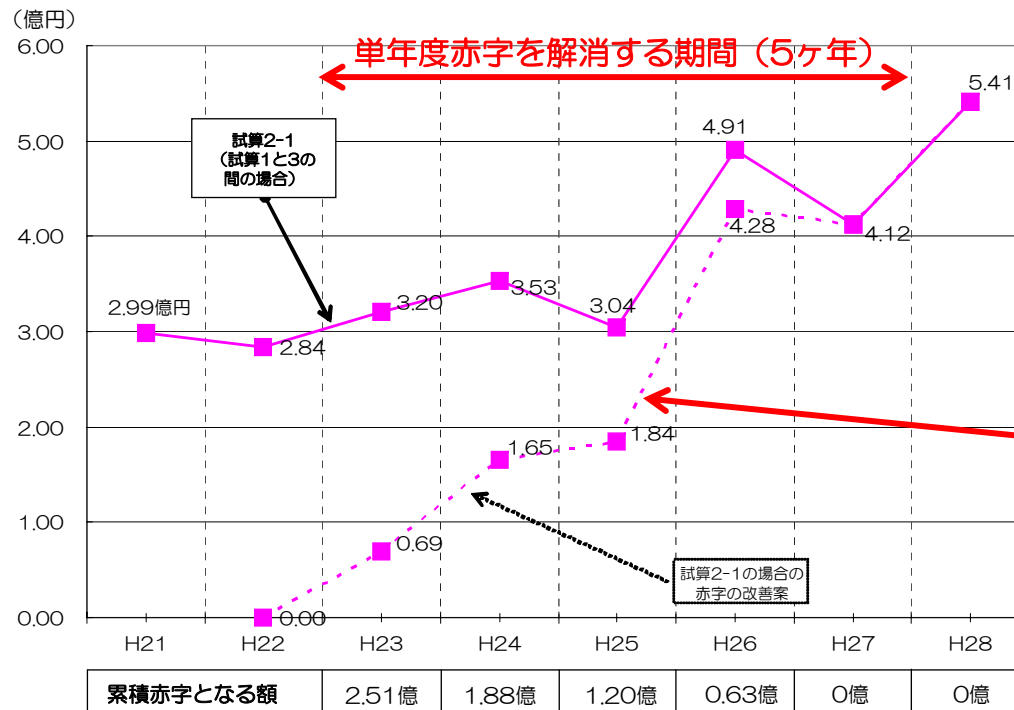
7. 単年度の赤字解消の試算③-2

(単年度の赤字が毎年度逦増するのではなく減少する年度があると想定した場合)

- ・ 試算③-1 を単年度の赤字が毎年度増加するのではなく、減少する年度もあるとして試算しました。
 - 平成23年度：保険料として必要な額の93%を確保
 - 平成24年度：保険料として必要な額の94.75%を確保
 - 平成25年度：保険料として必要な額の96.5%を確保
 - 平成26年度：保険料として必要な額の98.25%を確保
 - 平成27年度：保険料として必要な額の100%を確保
- ・ 平成28年度末の累積赤字は、約40億円です。

グラフ1：試算2-1での単年度の赤字と赤字解消の試算結果

表1：保険料の増加額



	試算2-1 (億円)
平成23年度	0.69
平成24年度	0.96
平成25年度	0.19
平成26年度	2.44
平成27年度	-0.16
平成28年度	1.29